人と自然が共生する地・宗谷創造プロジェクト

宗谷地域

【概要・目的】

宗谷地域は、魅力ある自然環境を有するとともに、広大な草地や日本海とオホーツクの恵み、地域内の7割を占める森林などを活かした1次産業が展開されています。地域の持続的な発展のためには、深刻な農林水産被害をもたらしている野生鳥獣・海獣の個体数の適正な保護管理に努めるなど、自然との共生や環境に配慮した地域づくりを進める必要があります。

また、人口減少・高齢化が進む中、域外からの人口流入を促進し、担い手確保につなげるためにも、地域資源を活かした産業の魅力を発信し、移住・定住の取組を推進します。

【施策展開】

これまでの主な取組実績

■ **環境に配慮した地域づくり**
- 地域森林整備・木材利用拡大円卓会議において、地域材の利用拡大に向け、幅広い観点から、知見の交換及び具体的な取組の検討を実施（振興局）
- 山腹崩壊、土石流災害危険箇所において、計画的に治山事業を管内で20件実施（振興局）
- 森林が持つ機能と役割について認識を深めてもらうため、小学生等を対象に、森林教室など協働の森づくり事業を実施（30件実施）（振興局・その他（小学校））

■ **自然環境の保全と持続的利用、再生の促進**
- 利尻礼文サロベツ国立公園内の高山植物を守るため、盗掘防止を呼びかけるキャンペーンを開催するほか、関係機関とともに盗掘防止に向けた監視パトロールを実施。（国・振興局・町・民間）
- 自然環境保全意識の向上や地元の自然に対する理解を深めることを目的として、自然公園内において、自然観察会を開催する（振興局・町）
- 環境省、豊富町等とともに、湿原と農業の共生を目指す「上サロベツ自然再生協議会」において、自然再生事業の取組を広く伝えるイベントに参加（国・振興局・町・民間）

■ **野生鳥獣の適正な保護管理の推進**
- ライトセンサス調査や市町村を対象とした野生鳥獣被害調査等によって把握した野生鳥獣の生息状況及び被害状況を関係機関と情報共有するため、「野生鳥獣対策協議会」を開催（振興局）
- エゾシカ捕獲事業の実施（振興局）
- トド・アザラシによる被害の実態や防止対策等の情報を共有するため、「海獣被害防止対策連絡会議」を開催する（振興局）
- アザラシによる漁業被害の軽減に向けて、効果的な捕獲手法及び捕獲体制構築のための検討を実施（振興局・民間）

■ **地域の魅力を活かした移住・定住の推進**
- 利尻高校、礼文高校を対象に、地域の魅力を取材しポスター作成を行うワークショップ「宗谷の高校生広告社」を実施（振興局）
- 地域おこし協力隊に対する地元定着率向上を目指した研修会の実施
- 首都圏等で新開催される移住フェア等への参加（振興局・町）
- 「ちょっと暮らし」等の取り組みの実施（市町村）
- 移住・担い手ポータルサイトを利用して、一次産業、医師等の働く姿を取材し宗谷で働く魅力を伝える情報発信（振興局）
- 振興局職員による宗谷地域の魅力を紹介する動画制作（振興局）

今年度の主な取組（令和元年度（2019年度））

■ **環境に配慮した地域づくり**
- 地域森林整備・木材利用拡大円卓会議において、地域材の利用拡大に向け、幅広い観点から、知見の交換及び具体的な取組の検討を実施する（振興局）
- 山腹崩壊、土石流災害危険箇所において、計画的に治山事業を管内で16件実施（振興局）
- 森林が持つ機能と役割について認識を深めてもらうため、小学生等を対象に、森林教室など協働の森づくり事業を実施（30件実施予定）（振興局・その他（小学校））

■ **自然環境の保全と持続的利用、再生の促進**
- 利尻礼文サロベツ国立公園内の高山植物を守るため、盗掘防止を呼びかけるキャンペーンを開催するほか、関係機関とともに盗掘防止に向けた監視パトロールを実施する（国・振興局・町・民間）
- 自然環境保全意識の向上や地元の自然に対する理解を深めることを目的として、自然公園内において、自然観察会を開催する（振興局・町）
- 環境省、豊富町等とともに、湿原と農業の共生を目指す「上サロベツ自然再生協議会」において、自然再生事業の取組を広く伝えるイベントに参加する（国・振興局・町・民間）

■ **野生鳥獣の適正な保護管理の推進**
- 野生鳥獣対策協議会の開催により、関係機関相互に捕獲・被害・生息状況に関する情報共有をはかっていくとともに振興局自らエゾシカの捕獲事業に取り組む
- ゴマフアザラシについては、北海道アザラシ管理計画に基づき、漁業被害の軽減のため、周年生息が確認される個体数の削減に向けた取組みを進める

■ **地域の魅力を活かした移住・定住の推進**
- 市町村と振興局が連携し、地域をPRする動画制作に取り組む
- 地域おこし協力隊の定着率向上を目指すために自治体や団体等からの問合せ対応（振興局）
- 首都圏でのポスター展示等による地域の魅力発信（振興局）
- 「ちょっと暮らし」等の取り組みを継続する（市町村）
- 移住・担い手ポータルサイトを利用して、一次産業、医師等の働く姿を取材し宗谷で働く魅力を伝える情報発信（振興局）

今後の取組を進める上での主な課題

■ **環境に配慮した地域づくり**
- 森林・林業をとりまく情勢の変化に応じて、森林整備や利用期を迎えた人工林の利用拡大の取組が必要。また、災害が発生した場合、さらなる地域との連携強化を進め、早期復旧に向けた計画策定が必要。
- 北海道森林づくり条例の「木育」に関する基本理念のもと、教育機関と連携し、木育への理解を深めるなど、取組を活発化させる必要
- グローバル人材育成のため、試験的に小学校に英語教育が導入されるなど、「木育」授業の時間確保が困難
- 地域で木育活動を支える人材（木育マイスター等）の確保が必要。

■ **自然環境の保全と持続的利用、再生の促進**
- 盗掘防止等の監視は、期間や場所が広範に渡るため、効果的な監視体制の構築が必要
- 自然環境保全意識の向上に向けた、自然に親しむ機会の創出
- 活動の担い手となる人材の育成

■ **野生鳥獣の適正な保護管理の推進**
- 効率的な捕獲に向けた捕獲方法の検討及び捕獲体制の構築が必要
- 捕獲の担い手となる狩猟免許所持者の養成

■ **地域の魅力を活かした移住・定住の推進**
- 管内若年層の減少率は5.4%と社人研数値（㉖全道平均1.7%）を下回る結果。一次産業の担い手不足（20年間で半減）
- 地域おこし協力隊の定着率は宗谷㉙63%（㉘25%）と改善し、全国平均の㉙63%と同じとなっているが、さらなる上昇のため継続的な隊員の能力向上と地域の支えが必要
- 移住・定住施策の実効性を高めるには、「酪農や漁業を志す若者」といったターゲットの明確化や就業体験など地域へ導くツール、ミスマッチの解消など戦略的なプロモーションの実施が必要
- 首都圏等の移住イベントは自治体間の競争が激化。「宗谷」へ人を呼び込むには、地域の「しごと」や「資源」の魅力を道内外へ広く発信するなど、「宗谷」の認知度を高める取組が必要
- 地元定着やUIターンを促進するため、地域の人自らが、地域の魅力を再認識し、地域内外に発信する取組が必要

人と自然が共生する地・宗谷創造プロジェクト

宗谷地域

【施策展開】

次年度の取組（令和2年度（2020年度））

■ 環境に配慮した地域づくり
- 地域森林整備・木材利用拡大円卓会議において、適切な森林づくりや木材利用に向け、幅広い観点から、知見の交換及び具体的な取組の検討を実施する。（振興局）
- 引き続き、災害危険箇所等、荒廃した保安林について、計画的に治山事業を実施する。（振興局）
- 森林が持つ機能と役割について認識を深めてもらうため、小学生等を対象に、森林教室など協働の森づくり事業を計画（20件予定）（振興局・その他（管内小学校等））

■ 自然環境の保全と持続的利用、再生の促進
- 利尻礼文ｻﾛﾍﾞﾂ国立公園内の高山植物を守るため、盗掘防止を呼びかけるｷｬﾝﾍﾟｰﾝを開催するほか、関係機関とともに盗掘防止に向けた監視ﾊﾟﾄﾛｰﾙを実施する（国・振興局・町・民間）
- 自然環境保全意識の向上や地元の自然に対する理解を深めることを目的として、自然公園内において、自然観察会を開催する（振興局・町）
- 環境省、豊富町等とともに、湿原と農業の共生を目指す「上サロベツ自然再生協議会」において、自然再生事業の取組を広く伝えるイベントに参加する（国・振興局・町・民間）

■ 野生鳥獣の適正な保護管理の推進
- 野生鳥獣対策協議会の開催により、関係機関相互に捕獲・被害・生息状況に関する情報共有をはかっていくとともに振興局自らエゾシカの捕獲事業に取り組む
- ゴマフアザラシについては、北海道アザラシ管理計画に基づき、漁業被害の軽減のため、周年生息が確認される個体数の削減に向けた取組みを進める

■ 地域の魅力を活かした移住・定住の推進
- 市町村と振興局が連携し、地域の魅力をPRする動画制作に取り組む
- 地域おこし協力隊の定着率向上を目指すために自治体や団体等からの問合せ対応（振興局）
- 移住・担い手ポータルサイトを利用して、一次産業、医師等の働く姿を取材し宗谷で働く魅力を伝える情報発信（振興局）
- 管内の高校生を対象とした企業展示会の開催（振興局）

【ＫＰＩの状況】

	H26（基準）	H27	H28	H29	H30	R2（目標）
○造林面積	1,544ha （H23～27計）	394ha （基準値に含む）	379ha	441ha 28%	385ha 41%	2,965ha （H28～R2計）
○自然公園利用者数	106万人 （H26）	101万人 進捗率　84%	98万人 82%	104万人 87%	93万人 78%	120万人
○エゾシカ捕獲数	5,200頭 （H26）	5,630頭	6,266頭	6,882頭	5,503頭	7,000頭
○若年層	10,518人㎡ 社人研推計値（H31）	11,370人 98.1%（注）	11,002人 96.7%（注）	10,703人 95.8%（注）	10,385人 94.6%（注）	10,800人 （R1）

（注）管内の若年層の人口減少率は全道平均を上回って推移していることから、H26年時点の全道平均レベル（前年度比98.26%）に減少を緩和することを目標とする
［10,385人÷10,973人×100=94.6%（H30）　10,703人÷11,178人×100=95.8%（H29）　11,002人÷11,383人×100=96.7%（H28）　11,370人÷11,588人×100=98.1%（H27）］